

9000

軍極秘

第一遣支艦隊機密第三七號ノ二

自昭和十六年十一月一日  
至昭和十六年十二月三十一日

一月十七日送付

第一遣支艦隊戦時日誌

第一遣支艦隊司令部

8/18

一經過  
の一般情勢

極度ニ緊迫セル對米英關係遂ニ決裂十二月八日對米英宣戰  
 大詔喚發セラルルニ至レリ  
 我海陸軍ハ開戰劈頭敵機先ヲ制シ赫々タル戰果ヲ擧ゲ  
 亦後ノ戰鬪ヲ著シク有利ナラシメタリ  
 太平洋上制海權ノ確保泰佛印トノ軍事同盟成立香港  
 白領ヒルマ攻撃平等ニヨリ米英ヨリスル援蔣行為ハ極限ヒラ  
 ルベク重慶政府ニ對シテ大鉄槌ヲ下セルモノト云フベシ  
 之ニ對シ蔣介石ハ英米蔣合作總反攻ヲ企圖シアルモノ如シ  
 又日米英開戰ニ當リ支那各地ニ於テ米英權益ノ一部ヲ接收  
 セルモ我軍ハ寬嚴宜シキヲ得タル措置ニヨリ表面極メテ平  
 靜ナリ

(四) 敵軍ノ情況

周辺ノ敵ハ蔣介石九日附游撃命令ニ基キ十二月三十日發動  
 ヲ目途シ總反抗特ニ游撃戰強化ヲ準備セリ即チ第一線  
 附近部隊ヲシテ我據点ヲ攻撃シ此ノ間有力ナル挺身部隊  
 ヲ編成シ台據地域内ニ侵入重要地點若クハ交通通信線ヲ破

攘セシメント企圖セルモ我軍ノ各地ニ於ケル先制攻撃ノ為順次  
 其ノ企圖ヲ破碎セラレタルモノノ如ク本月中敵軍一般底調  
 ニシテ右游撃軍命令ニ基ク行動ヲ活潑ナラス  
 敵空軍ハ友軍航空部隊主力ノ他方向轉用ニ伴ヒ銳意其ノ  
 雨運ニ努力スルト共ニ進ニテ武漢地區其ノ他ニ進撃セントシツ  
 ツアルモノノ如シ

01) 任務編成 配備

一) 一般任務

レテ以上眼ヲ  
 敵軍トシテ  
 100%トシ

- (1) 岳州附近ヨリ下流燕湖(含マズ)ニ至ル揚子江水路維持確保
- (2) 同上流域及附近内河運河湖水ニ於ケル敵兵力斃撃破水  
路維持確保

(3) 海軍占據地域ノ確保安定

(4) 下揚子江及附近ニ於ケル敵兵力軍事施設交通線運輸機關  
軍需品貯藏所政府機關等ノ攻撃

二) 特別任務

- (1) 陸軍第十一軍ト協力洞庭湖方面ノ敵牽制攻撃
  - (2) 敵性國家權益接收
- 三) 艦隊編成

記事 宇治八第一遣支艦隊司令官長官の戦指揮ヲ受タリ

支那方面艦隊		區
第一遣支艦隊		分
屬	附	艦
	漢口方面特別根據地隊	隊
	宇治	安宅、熱多、堅田、比良、保津、熱海、二見、伏見、隅田
九江發遣備隊		特設艦隊部
（第三海軍病院）		隊所管
（漢口海軍特務部）		鎮守府
（第六海軍庫南郵便所）		
（第一遣支艦隊隊法會議）		
	吳	
支那方面艦隊司令官長官		所屬長官
第一遣支艦隊司令官長官		司令官
	漢口方面特別根據地隊司令官	

(四) 揚子江部隊軍隊區分

區分	兵	力	指揮官	分擔區域
主隊	□ 安宅		第一遣支隊隊長官	會 般
漢口方面	漢口方面特別根據地隊 陸上部隊 小鷹 膠濟 艇子丸 砲艇 中型二艇 三艇 二小艇 滑走艇(左) 八號支隊竹丸 高速艇二 内火艇二 内火通艇一	漢口方面特別 根據地隊司令官	武漢海陸警備區域 沌口(含之)ヨリ陽羅 (含マズ)ニ至ル揚 子江水流漢川附 近ヨリ下流漢水	
警戒隊		伏見 艦長	沌口(含マズ)ヨリ上流 城陵磯ニ至ル揚子江 本流 洞庭湖及同沿岸	
上流警戒隊	伏見 比良 堅田 特設砲艇四(407 408 409 417) 砲艇 (漢根所屬小艇二滑走艇二)	伏見 艦長	陽羅(含之)ヨリ官 湖港(含マズ)ニ至ル 揚子江本流及 同沿岸	
中流警戒隊	隅田 保津 新鴻興 特設砲艇四(401 402 410 411) 砲艇 (漢根所屬小艇二) 漢根飛遣及陸戰隊	隅田 艦長	湖口(含マズ)ヨリ 蕪湖(含マズ)ニ至ル 揚子江本流及 同沿岸	
下流警戒隊	勢多 二見 越海 竹生 特設砲艇(404 405 412 413 414 415 416) 九號派遣及陸戰隊	勢多 艦長	官湖港(含之)ヨリ 湖口(含之)ニ至ル揚 子江本流 鄱陽 湖南昌ニ至ル贛 江水路 同沿岸	
九江方面	九江警備隊 陸上部隊 文星 海州 楓丸 四號支隊 砲艇 中型一艇 八機艇 五小艇 滑走艇(三)	九江警備隊司令		
警戒隊				
記事	漢口方面特別根據地隊ニ將旗移揚中安宅ハ漢發言 上發言及中發言ニ協力スルモノトス 滑走艇欄分子ハ常用分母ハ補用トス			

五) 軍隊區分の変更

期日	艦(船名)	新警戒隊	旧警戒隊	記
一日	堅田	上警隊	下警隊	一時下警隊ニ加ヘラレリ所復歸
二十日	熱海	主隊	下警隊	熱海旗艦トナル
	安宅	下警隊	主隊	下警指揮官ヲ安宅艦長ニ改ム

(二) 作戰指導寸

(一) 中夾及其他ト連絡指揮官判断作戰計画及令達  
 下旬ヨリ施行豫定ノ第十一軍「號」號作戰ニ對シ第十一軍  
 ヲリ協力ヲ依頼シタキ豫備交渉アリ連絡ノ結果上流  
 敵警戒隊ヲ主隊トスル協力部隊ヲ編成シ之ニ協力スルニ決  
 レ十一月十八日右ニ開スル作戰命令ヲ令示セリ即チ第九戰  
 區西部ノ敵ハ今秋ノ長沙作戰ノ結果甚大ナル損害ヲ被リ  
 其ノ勢力ノ回復ニ汲ムタルモ未ダ著シク劣勢ニシテ徒ラ陣地  
 強化道路ノ破壞等ニ依リ我進撃ヲ阻止セントシソツアリ  
 加之大東亞戰爭開始ノ為蔣介石ハ右兵力ノ一部ヲ香港  
 背後ニ轉用セルヲ以テ第十一軍ハ此ノ機ヲ利用シ敵兵力ヲ  
 殲滅スルト共ニ敵香港方面兵力ヲ牽制セントス  
 又前長沙作戰ノ經驗ニ鑑ミ洞庭湖方面ニ海軍兵力ヲ進

第六戰區、敵軍、右作戰協力ヲ阻止スルヲ有利ナリト  
 判断シ艦隊、陸軍、作戦ニ協力スルニ決セリ  
 尚右作戰ニ關シ指道ヲ陸軍ト連絡、為作戰前半期  
 次第參謀ヲ伏見ニ派遣セリ  
 (一) 麾下ニ友軍、行動概要  
 (二) 麾下

上流放言戒隊

所區ヲ移動放言戒シ江岸及水路ヲ確保セリ  
 伏見ハ八日一三三。在城陵磯米國權益ヲ接收セリ十日  
 城陵磯ニ於テ密偵十四名檢束岳州陸軍放言備隊ニ  
 引渡セリ二十三日及二十四日夫々仙峰山下流江岸及備山  
 上流江岸ニ於テ(一) A型(二) 機雷各一個揚收處分セリ  
 堅田ハ二十四日。九三。嘉魚ニ敵匪約三。(易尚海部隊)  
 來龍長陸軍整備隊ニ應戰正午頃東方ニ數年退セルモ  
 雨驟ニ圖リツツアリト報ニ接シ一五四五陸戰隊ヲ揚陸  
 陸軍整備隊ニ協力敵ヲ港口南方地區ニ數年退セリ  
 伏見比良小發一滑走艇ハ二十六日以後上流放言戒隊指  
 揮官指揮、下ニ陸軍、號作戰ニ協力洞庭湖方面  
 作戰ニ從事セリ(詳細後誌)

口中流警言戒隊

哨區ヲ移動警言戒シ江岸及水路ヲ確保セリ  
 隔日ニ日午後石灰窪陸戰隊ト聯合陸戰隊ヲ揚陸富  
 池口半辺山一帯ヲ掃蕩セリ更ニ三日午後保津及石灰窪陸  
 戰隊ト聯合陸戰隊ヲ以テ馬口武林港馬口胡一帯  
 ヲ掃蕩二十五日ニ新鴻興石灰窪陸戰隊ト聯合陸  
 戰隊ヲ以テ漳源口對岸ヲ掃蕩セリ  
 保津ハ三日午後盤塘馮家山間地域(田家鎮下流ニ連  
 四日長湖港河山一帯五日漳源口以北茅磯港ニ至ル  
 地域ニ夫々陸戰隊ヲ揚陸掃蕩宣撫セリ又五日ニ魁  
 復洲(日鉄カールバ)ヲ作業場ニ敵運約十五名來籠セ  
 ルヲ以テ直ニ警言戒テ之ヲ斃手攘シ更ニ翌六日陸戰隊ヲ  
 以テ附近一帯ヲ掃蕩シ且陣地ヲ強化セリ  
 新鴻興ハ十八日陸戰隊ヲ揚陸自許鎮對岸ヨリ下葉  
 家洲ニ至ル一帯ヲ掃蕩宣撫セリ  
 中流警言戒隊ハ九日鄂城蕪州武穴米英權益ヲ接收  
 十日陸海軍協定ニ基キ陸軍側ニ引渡セリ  
 保津及小發ハ二十六日以後上流警言戒隊指揮官指揮  
 下ニ入り洞庭湖方面作戰ニ從事セリ



下流救言戒隊

哨區ヲ移動救言戒シ江岸及水路ヲ確保スルト共ニ十五日ヨリ二十八日ニ至ル間陸軍部隊ノ江南方面作戰ニ協力シ上ノ救言戒ニ任セリ

勢多ハ十五日一五。骨牌州北西張昇州方面ニ全金ノ率平ル敵匪約二百名來龍衣ノ報ニ依リ陸戰隊ヲ銀々廟對岸上流約一哩ニ揚陸馬當圓水道左岸ヲ掃蕩セルモ匪賊ハ逸早く逃走セルヲ以テ附近一帯ヲ宣撫セリ

熱海ハ四日一五。嶺新開闢於テ南岸ヨリ北岸敵匪地帯ニ物資ヲ搬出セントスル我寇ニ隻(搬出許可証良民証所持者)臨檢粗綿三五。匪沒收ノ上放免セリ又十五日一五。大白節沙上流一哩ヲ上江中ノ第三高速丸ハ左岸ヨリ射殺手ヲ受ケタルヲ以テ熱海ハ砲撃手制圧掃蕩セリ

安宅ハ四日。八四五白節水道大套藩ニ陸戰隊揚陸附近一帯ノ部落ヲ宣撫掃蕩セリ又三日敵軍一三師遊撃隊接レ安宅ハ掃蕩中藩ニ二見ハ段家藩ニ夫々陸戰隊ヲ揚陸陸軍部隊ニ協力シ之ヲ北西方ニ潰走セシメタリ  
綜合戰果捕虜ニ遺棄屍体一六民船(敵兵一。名乗船)

map 1994  
1994  
1994

4

漢口方面警言戒隊  
二 漢口方面警言戒隊  
三 漢口方面警言戒隊

哨區ヲ移動警言戒レ江岸水路及警備地區ヲ確保セリ  
漢口方面特別根據地隊ハ八日在漢口英國船舶ヲ拿捕ス  
ルト共ニ米英權益ノ一部ヲ接收セリ

漢川基地六號砲艇ハ陸軍セマ一船ガ一日。八。漢川上流  
三五埋油榨河ヲ上江中江岸ノ敵約四五名ヨリ小銃拳銃  
ヲ以テ龍長數手セラルトノ報ニ接レ現場ニ急行セルモ敵影ヲ  
認メ不陸軍側重傷一輕傷一

漢川基地隊ハ五日。漢川上流四理劉家集江  
岸ニ便衣ノ匪兵ラレモ十數名ヲ認メ銃數手潰走セシメ  
タリ小鷹竹丸艦水ニ中型砲艇三小艇ニハ二十六日以後  
上流警言戒隊指揮官ノ指揮下ニ入り洞庭湖方面作戰ニ從  
事セリ

ホ九江方面警言戒隊

哨區ヲ移動警言戒レ江岸水路及警備地區ヲ確保セリ

九江警言備隊ハ五日。四。ヨリ鄱陽湖贛江戎亮一四  
隻ヲ一隊ヲ臨檢セルモ敵性及遲反事ノ項ナレ

八日在九江英國船舶ヲ拿捕シ米英權益ノ一部ヲ接收セリ

九月二三。ヨリ三三。迄陸戦隊一ヶ小隊ヲ以テ洋油棧部  
 落ヲ掃蕩宣撫セリ。同日。五湖口在泊ノ海州ガ機  
 雷浮標一個ヲ発見セルヲ以テ砲艇ニテ江上湖上一帯  
 機雷ヲ搜索セルモ放流ノ形跡ヲ認メズ  
 十日。四四。洋油棧ニテ密航我艦一ヲ捕獲取調ノ上  
 嚴重訓戒釋放セリ。同日。石鐘山下流ニ。米ニ於  
 テ。型(五)一個ヲ発見爆破處令セリ  
 二十日。三三。ヨリ一七。迄陸戦隊(憲兵協力)ヲ以テ官  
 湖港及二食口戴家湾ニ於テ便衣混成隊一齊檢閲  
 ヲ行ヒ左ノ通逮捕押收セリ  
 官湖港一隊員六名 手榴彈二  
 戴家湾一隊員一名 容疑者一五名 拳銃一 手榴彈一  
 文星八四日午後ヨリ二食口官湖港新港方面ノ民船ヲ臨  
 検スルト共五日官湖港對岸ヲ掃蕩宣撫セリ  
 陸軍(陸)號作戦協力部隊  
 左記艦艇ヲ以テ首題作戦部隊ヲ編成シ上流警戒隊  
 指揮官ヲシテ之ヲ指揮セシメタリ  
 伏見比良保津熱海小鷹竹丸艦水ニ中型砲艇三  
 小發四滑走艇二

(maps 11)

尚上海航路部漢口測量隊及津海軍軍需部漢口支部  
 日本作戰協力セリ  
 參加艦艇ハ二十六日一七。迄ニ城陵磯ニ集結ル後城  
 陵磯ヲ其地トシ行動セリ  
 九馬嘴前方面洲ニ新ニ陣地ヲ構築シテ陸軍ハ九  
 馬嘴鹿角砲隊牽制ヲ希望セルモ減水ノ多ク砲艦ノ  
 湘江困難ナルヲ以テ該方面ハ小舟艇ヲ以テ陽動ヲ安貞  
 施セタメ主力ハ主トシテ本流方面ヲ行動セリ  
 二十八日小鷹及中型砲艇二隻ハ龍子灘ニ至リ陽動セルモ  
 敵ヲ見不同日艦水二隻及中型砲艇一隻ハ城陵磯ヨリ  
 揚子江本流一。理ヲ略掃セル構捉機雷ナレ  
 二十九日小鷹及中型砲艇艦水各二隻ハ九馬嘴前方面  
 陽動セリ鹿角砲監視兵ヲシテノヲ認メタル外異状ナシ  
 各艦艇ハ三十日。七三。城陵磯發陸軍部隊ト協力左ニ  
 依リ君山北方地區ノ敵ヲ攻撃掃蕩ニ至リ城陵磯ニ敵  
 着セリ  
 一、第一小隊(伏見熱海)陸戰隊ハ二洲子(城陵磯上流八里)  
 二、上陸陸軍安江部隊ノ右翼ヲ支援敵ヲ擊退シツ  
 西進敵據点三支角(城陵磯上流十五里)ヲ攻撃セリ

28-15/11 maps 11

我輕傷者一名敵遺棄屍體三。

第二小隊ハ比良保津陸戰隊ハ觀音洲ニ上流自螺磯警備隊ト協力薛家潭莊夏家附近ヲ掃蕩セリ

各艦艇ハ三支南下流ニ進出夫ハ陸戰隊ヲ支援セリ  
三十日熱海ハ上流故言戒隊指揮官ノ作戰指揮ヲ解  
カレ三十日漢口ニ歸着セリ

ト米英權益接收關係

對米英關係逼迫セルヲ以テ支那方面艦隊命令ニ甚キ

メ最悪事態到來ニ處スベキ部署ヲ定メ置ケリ

揚子江上中流方面唯一ノ米英兵カタリシ米砲艦ウエーク

ハ上月二十四日上海ニ向ケ下江セルヲ以テ南艦隊故言備地

区内ニ米英兵カハ存在セザルニ至セリ

米英權益接收關係レテハ各故言戒隊毎ニ警備分担區

域内所在權益接收ノコトニ定メタリ

而シテ陸軍ト協定シ船舶及同繫留施設ハ海軍担任担

任宜昌ニ在リテハ陸軍担任陸上ニ於テハ夫々故言備地區毎ニ

担任担シ在漢口ノアジア及「スタンダード」丹水池貯油施設

ハ海軍担任ノコトニ定メラレタリ

第一次接收ハ八日。七三。米英國所屬船舶及同繫留  
 施設ニ對シテ實施セシメタリ  
 漢口方面特別根據地隊ハ三五。噸以上船舶六隻及雜船  
 三十數隻ヲ接收セリ大型船舶左ノ如シ

CHINA

怡和洋行(英)所有

太古洋行(英)所有

隆和	二十日	海軍監督指導
宝和	十七日	下東亞海運ヲシテ
吉和	二十六日	整備上各上詔ノ日
燕湖	二十六日	漢口發上海高ケ
長沙	二十五日	下江セシメタリ
吳淞	二十日	

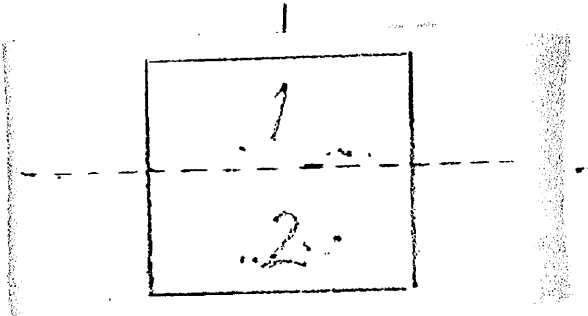
九江警備隊ハ太古洋行所有温州(二六。噸)及雜船數  
 隻ヲ接收セリ温州ハ特設艦艇トシテ外洋使用可能ト  
 認メラレ整備ノ上十七日上海向ケ下江セシメタリ  
 漢口ニ於テ接收セル棧橋ハ太古洋行所有ハモノニテ海軍  
 管理使用他ハ陸軍及民間ニ使用セシムル為陸軍ニ  
 移管セリ  
 第二次接收ハ八日。八。米英所屬重油槽及同所附  
 屬施設ニ對シテ實施セシメタリ  
 漢口方面特別根據地隊ハ八日在漢口「アジア」及「スタンダ」

左ニ多分アリ、ヌキトク

44.7.23

石油  
 舟水池貯油施設ヲ接收セリ  
 接收油槽八。屯二基五。屯六基四。屯一基三。  
 屯二基三五。屯以下一基重油三五屯輕質油若干  
 九江敬言備隊八日在九江「アジア」石油六。屯油槽  
 二基四五。屯以下油槽八基及附屬施設ヲ接收セリ  
 伏見川八日域陵磯ニ於テ「スタンド」ト石油一。屯油槽  
 二基二。屯油槽一基及附屬施設ヲ接收セリ  
 中流敬言戒隊八日鄂城蕪州武穴米英權益ヲ接收  
 上日陸軍側ニ引渡セリ  
 安慶陸戰隊八九日在安慶小型重油槽一ヲ接收セリ  
 個人商社關係ハ内容調査終了未ダ接收シ居  
 ラス

# 分割撮影ターゲット

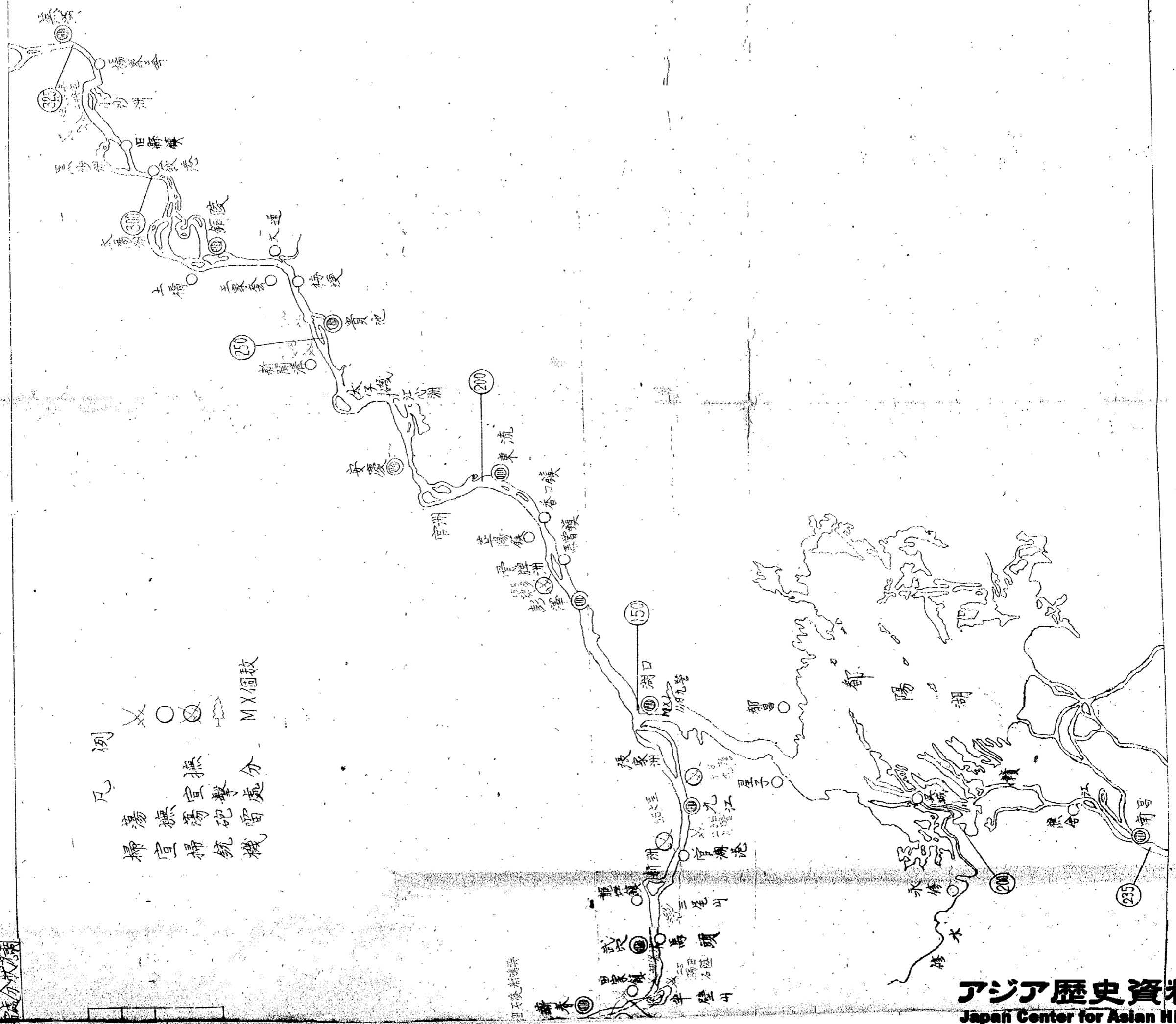
分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>59 年 10 月 22 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者</p> <p>山岸正雄 (印)</p>	



16.12.1.10-10  
 5分  
 2.0

分状況

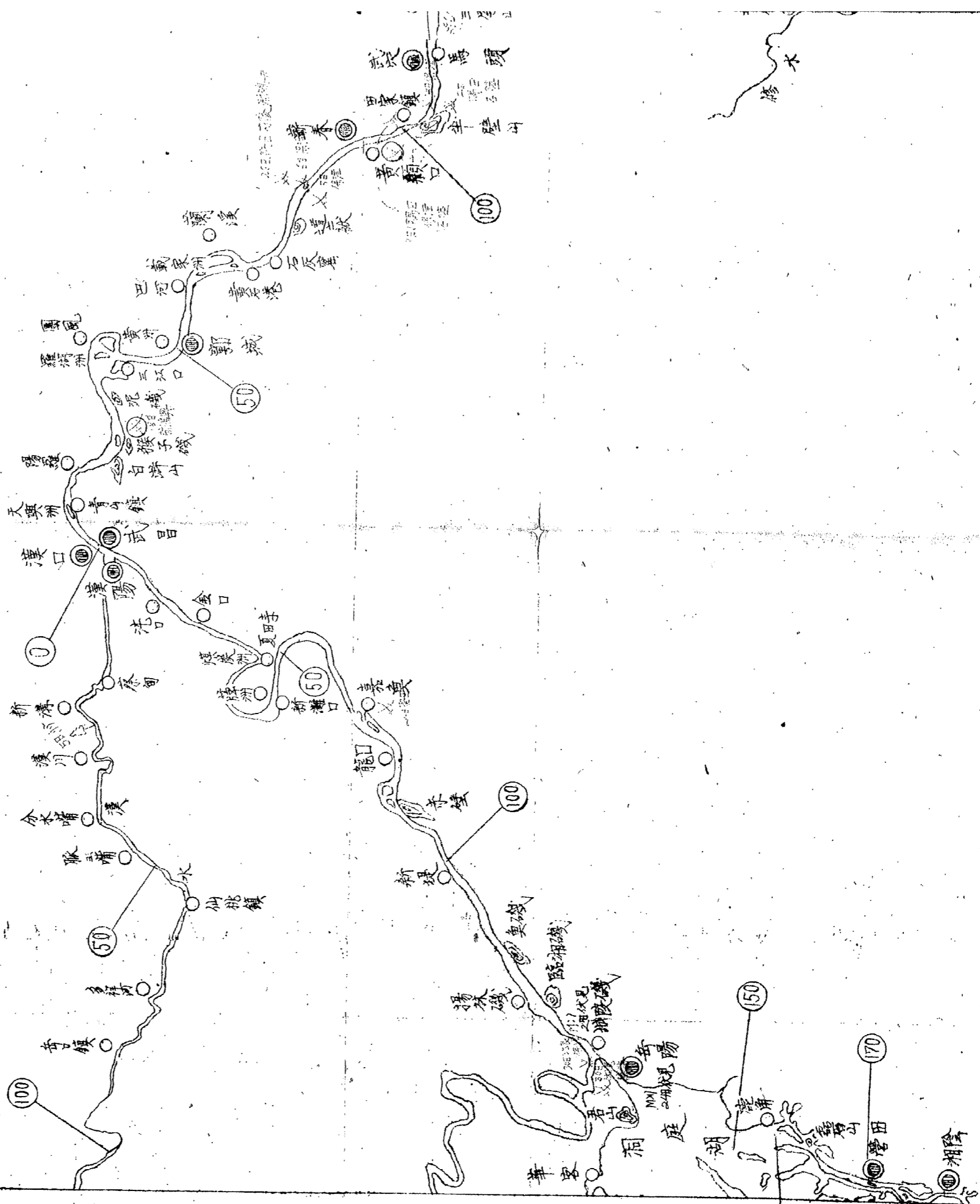
凡例  
 湯撫湯  
 宣掃宣  
 撫掃撫  
 擊砲擊  
 處分  
 留雷  
 機  
 M X 個敵



0020

十一月爆撃掃蕩宣撫銃砲撃掃處分表

空襲回数		0
掃蕩宣撫銃砲撃掃	掃蕩19宣撫0	19
機雷敷	上	2
	中	0
	下	0
處分表	其	0
	他	1



0021

觸雷ナレ

被攻撃状況		遭難状況		月日	場所	艦名	記
三、一	田家鎮附近	軍需部成田丸 第三千英丸					軍需部定期船下江中一。田家鎮附近馬口港半辺山盤塘ヨリ敵艦小銃射撃ヲ受ケタルニ被害ナレ
五	漢川流油操河	陸軍ヤンゴノ船	魁復洲日本サルベージ作業場				漢川ヨリ上江ノ途中油操河浜岸ヨリ約五名ノ敵ヨリ射撃ヲ受ケ應戦飛艇ノ為ニ沈没シ艇ヲ急派セルニ敵影ハ陸軍側重傷一輕傷一其他異状ナレ
二	大白節沙	海軍給糧船 第三高速丸					二。頃魁復洲日本サルベージ作業場ニ敵艦約五名來襲セルニ我軍武裝之ヲ攻撃異状ナレ
二	漢口	東亞海運 興亞丸					一五。大白節沙上流一運附近ヲ上江中岸第三高速丸ハ機銃小銃ヲ有スル敵艦ヨリ射撃ヲ受ケ難儀ハ直ニ砲撃ヲ發シ制圧ス異状ナレ
五	骨牌洲 北西	張昇洲宣撫地區					夕刻漢口港務部下流鬼張所ヨリ九。度五。米。地兵ニ坐洲積荷ヲ卸シ八陸軍艦協力下二十三。一。三五離洲セリ
八	大王廟下流二運	漢需春日丸					張昇洲方面ニ全套ノ率升ル敵艦約二。名來襲セルヲ為シ勢多ハ陸軍隊ヲ張廟對岸上流一運ニ揚陸宣撫ス異状ナレ
二四	嘉魚						坐洲。九。二。漢需春日丸為大王廟下流二運ニ飛テ西。四。二。砲艇ヲ用ヒ離洲船体異状ナレ

○九。三。嘉魚ニ對シ敵艦約三。名(易高海軍隊)來襲張廟陸軍隊ヲ揚陸所ニ在リ備隊ニ協力應戰至五日陸軍隊ヲ收容セリ

記事

(3) 友軍

各共團共上中旬、概不發言備地區内、掃蕩ヲ實施セリ  
 第土庫ハ香港攻略戰及南方陣、作戰ニ策應二十四日ヨリ  
 江南地區ノ敵ニ對シテ、號作戦ヲ開始シ、第三、六、四十師團  
 ヲ主力トシ二十四日、日没後、新橋河ノ線ヨリ進撃ヲ開始スル  
 抵抗ヲ受ケルコトナリ、第三師團主力及第六師團一部ハ二十六  
 日夜、贛市河附近下流、汨水右岸ニ進出、第六師團及第  
 四十師團ハ大荆街、關王橋南側高地線ニ據リ抵抗スル  
 敵、第二十軍ヲ撃破シ、二十七日、汨水ノ線ニ進出セリ  
 二十八日、第三師團ハ歸義南方粵漢線兩側、微弱ナ  
 ル敵ヲ驅逐シ、南下シ、第六、四十師團ハ汨水、増水ヲ  
 強行渡河南岸ニ地歩ヲ獲得、爾後所在ノ敵ヲ撃破  
 シ、南下セリ  
 三十日ニ於テ、第三、第六師團ヲ以テ、長沙、第四十師團ヲ以テ  
 金井ニ向敵ヲ追撃中、又同日夕刻、第三師團ノ一部ハ  
 長沙東方瀏陽河ヲ渡河中ナリ  
 一方、號作戦ニ呼應、各兵團ハ、敵言備正面ノ敵ニ對シ  
 中旬、攻撃ヲ開始シ、各之ヲ撃破シ、テ多大ノ戰果ヲ  
 收メ、且、其蠢動ノ企圖ヲ挫折セシメタリ

(三) 敵軍ノ實況

即チ南昌方面大算兵團主力ヲ以テ二十四日ヨリ高安方面ニ進攻シ新編第三軍等ヲ數千減多大ノ戦果ヲ收メタリ又九江方面中山部隊ハ二十四日ヨリ攻撃ヲ開始武寧方面敵ヲ攻撃掃蕩セリ

更ニ江北提兵團主力ハ二十五日ヨリ大洪山西側張家集附近敵ノ防務交代ノ直後ヲ急襲第一五師ヲ潰走セシメタリ

陸軍航空部隊ハ安康方面ニ進出武漢攻撃ノ機ヲ窺ヒアリシ敵航空部隊ヲ攻撃粵地ニ遁走セシメテ爾後進出スルヲ得サラシメ武漢方面防空ヲ完全ナラシメタリ

一方ノテ號作戦ニ協力連日出勤敵部隊偵察攻撃ヲ任セタリ

本月中一般ニ低調ニシテ十一月三十日發動十五日間游撃ヲ行勅ヲ實施スベク命ケラレタリ南昌方面ニ於テ微弱ナル敵一部ノ蠢動ノ兆アリシ外未ダ具體的徵候ナシ

第五戰區ハ二十二日迄ニ準備完了二十日ヨリ行勅ヲ開始スベク命ケラレタリ

第六戰區ハ全カヲ以テ日本軍兵力ノ轉用ヲ破碎止シテソノ

戦力ヲ潰滅スバク突撃部署ニ就キ居タル處我軍が攻撃ヲ開始セルヲ以テ二十六日直ニ発動スバク命令セラレタルモ顕著ナル反撃ヲ認めズ

第九戦區ノ敵ハ一部兵力ヲ廣東方面ニ轉用セラレタルモ香港陥落セルヲ以テ月末復歸ヲ開始セリ各方面ヨリ我軍が攻撃ヲ受ケ第一線正規軍ハ既ニ潰走シ主トシテ游撃隊挺身部隊ヲシテ鉄道公路ノ破壊ヲ實施セントシアリ

敵空軍ハ日米英開戦以來絶エズ武漢地區攻撃ノ機ヲ窺ヒソアリ一時陸軍航空部隊ノ攻撃ヲ遭ヒ奧地ニ遁走セルモノノ後再ニ進出一月ニ進攻ノ公算極メテ大ナリ

中旬敵機雷隊約一六〇名(機雷百數十個ヲ有ス)萬縣ヨリ平善墳附近(宜昌上流十料)到着ニ揚子江敷雷ヲ企圖シアルモノノ如シ又上饒敷雷隊ハ蕪湖九江間減水期機雷敷設ヲ企圖シ一部隊員ハ十七日之ガ準備作業ニ着手セルモノノ如シ

四) 作戦ニ影響ヲ與ヘル事項

減水期ニ入り艦艇ノ行動自由ナラズ洞庭湖方面作戦ニテハ極メテ不便ヲ感ジタリ

太平洋上ニ於テハ赫々タル戦果大ニ士氣ヲ振作セリ

(五) 戦備及ニ政策事項  
特ニナリ









6209

(ハ) 寫 眞  
 ナ  
 (ロ) 戰 訓  
 特ニナシ

	31	30	29
楊 一 六 溝	安 一 三 慶 四 五		安 一 八 慶 四 〇 九 三 〇 流
←			地
←			地
←			地
			骨 一 五 牌 三 〇 新 九 洲 五
漢 一 四 口	竟 〇 七 五 口	竟 一 九 三 口	作 一 五 戰 地 〇
殷 一 七 家 溝	田 〇 九 縣 鎮	田 一 四 四 縣 鎮	新 九 一 開 溝
←			地
南 一 三 京	天 〇 八 申 橋	天 一 八 三 申 橋	二 〇 八 官 洲
←			二 〇 八 官 洲 白 〇 八 節

0800

15

二月十日



海軍武功勳章委員殿

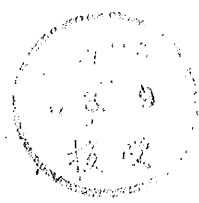
遣支艦隊機密第三七號六

自昭和十七年一月一日  
至昭和十七年一月三十一日

# 第一遣支艦隊戦時日誌

第一遣支艦隊司令部

7/18



一 經過  
(一) 一般情勢

大東亞戰爭ハ益々順調ニ經過シ比洋賓諸島馬來半島ボルネオ島等ノ大部ヲ占領シ更ニ南太平洋諸島軍事要衝及敵兵力ニ對シ攻撃ヲ加ヘ着々戰果ヲ擴充シツ、アリ

支那方面ニ在リテハ相次グ米英兩國ノ敗戰茲ニ我ビルマ攻撃ニヨリ米英ノ援將熱意著ルシク冷却シ且開戰前呼號セル米英將軍事同盟ニ掛声、ミニテ何等實績ノ見ルベキモノ無シ蔣介石ハ右三國密約ニヨリビルマ防備部隊ヲ編成セルモ之亦積極的出撃ノ意圖ニ乏シク只管防守及整訓ニ專念シアルモノノ如シ

尚戰局ヲ有利ニ展開セシメントシテ蘇聯引入工作ニ努力シツ、アルモノト認メラル

(四) 敵軍ノ情況

敵ハA・B・C・D軍事合作ノ具体化ニ努ムルト共更ニ進テ蘇聯ト協定ヲモ進シ行セシメントシツツアルモノノ如シ

曩ニ蔣介石ガ發動ヲ嚴命セル敵ノ游撃行動ハ各方面共一部挺進部隊ヲ以テ出撃ヲ實施セルモ我軍ノ先制攻撃及敵ノ戰意不足ニヨリ失敗

ニ歸シ且我陸軍第二次長沙作戰中第五第六戰區ノ敵ハ第九戰區ノ作戰ニ策應シ反攻ヲ實施セルモ之亦極メテ低調ニシテ悉ク我軍ニ擊テ破ラレタル為蔣介石ハ十日附ヲ以テ戰力ノ保有ヲ企圖シ全面的整訓實施ヲ命ジタリ

之ニ反シ重慶迄ニ中國共產黨ノ謀略工作特ニ宣傳ハ益々活潑トナリ就中汪政權側軍隊ニ對スル策動ハ熾烈ナルモノアリ  
敵軍ハ又日本軍諸施設ノ破壊ニ關シ賞金獎勵法ヲ設ケ督勵シアルモノ如シ

重慶空軍ハ昆明ビルマ方面ニ於ケル米國志願隊ノ活躍ト相俟テ成都、昆明、桂林等ヲ中心トシテ行動シ從來ニ比シ比較的活況ヲ呈スリ

(二) 任務、編制、配備  
一 一般任務

- (1) 岳州附近ヨリ下流蕪湖(含マズ)ニ至ル揚子江水路維持確保
- (2) 同右流域及附近内河運河湖水ニ於ケル敵兵力擊破水路維持確保
- (3) 海軍占據地域ノ確保安定
- (4) 下揚子江及附近ニ於ケル敵兵力軍事施設交通線運輸機關軍需品貯藏所政府機關等ノ攻撃

(三) 艦隊編制

- (一) 特別任務
- (1) 陸軍第十一軍ト協力洞庭湖方面ノ敵率制攻撃
- (2) 敵性國家權益接收

支那方面艦隊	第一遣支艦隊	附屬	艦船部隊		特設艦船部隊	所屬長官
			安宅、勢多、堅田、比良、保津、熱海、見、伏見、隅田、宇治、漢口方面特別根據地隊	九江警備隊	所管鎮守府	司令官
			(第三海軍病院)	吳		
			(漢口海軍特務部)			
			(第六海軍之用郵便所)			
			(第一遣支艦隊軍法會議)			
			司令官			
			司令官			
			漢口方面特別根據地隊司令官			

備考、一、宇治、第二遣支艦隊司令長官ノ作戰指揮ヲ受ケツアリ  
 二、一月十五日附漢口方面特別根據地隊及漢口海軍特務部ハ廢止  
 三、漢口警備隊特設ヲル

區分		兵力		指揮官		分担區域	
(四)揚子江部隊軍隊區分 昭和十二年一月一日 第一遣支艦隊司令部							
主隊		熱海		第一遣支艦隊司令官 全		般	
漢口方面	警戒隊	漢口方面特別根據地隊	陸上部隊	漢口方面特別根據地隊司令官	武漢海軍警備隊	漢口(含マ)ヨリ	陽羅(含マ)ニ至ル揚子江本流
上流警戒隊	警戒隊	伏見 比良 堅田	特設砲艇四(407 408 409 417)	伏見艦長	漢口(含マ)ヨリ	上流(含マ)ニ至ル揚子江本流	庭湖及沿岸
中流警戒隊	警戒隊	隅田 保津 新鵜興	特設砲艇四(401 402 410 411)	隅田艦長	陽羅(含マ)ヨリ	官湖港(含マ)ニ至ル揚子江本流	流及沿岸
下流警戒隊	警戒隊	安宅 勢多 三見 竹生	特設砲艇七(404 405 412 413 414 415 416)	安宅艦長	湖口(含マ)ヨリ	蕪湖(含マ)ニ至ル揚子江本流	及沿岸
九江方面	警戒隊	九江警備隊	陸上部隊	九江警備隊司令官	官湖港(含マ)ヨリ	湖口(含マ)ニ至ル揚子江本流	鄱陽湖
記事	記事	漢口方面特別根據地隊 將旗移揚中 熱海ハ主トシテ中警備ニ協力スルモノトス 滑走艇ヲ欄分子ニ常用分母ニ補用トス 一月十五日附漢口方面特別根據地隊廢止セラレ漢口警備隊特設セル					

(五) 軍隊區分ノ變更

ナ  
シ

(二) 作戰指導

(一) 中央其ノ他トノ連絡指揮官ノ判断、作戰計畫及令達ノ要旨ヲ行動  
前月下旬ヨリ續行中ノ上流方面作戰ハ陸軍部隊及轉ヲ開始シ江  
上ニ大ナル兵力ヲ存置、要ナキニ至リタルヲ以テ一月七日作戰部隊ノ解散  
ヲ令シ上流警戒隊ヲ以テ陸軍部隊原駐地復返迄引續キ前任務ヲ  
續行セシメタリ

又中旬ニ至リ新灘口附近ニ駐屯スル定國軍(坂順軍)ハ新四軍ト戰  
ヒ敗退シ江岸ノ形勢不穩、兆アリシヲ以テ十三日中流警戒隊ヲ保  
津ヲ派遣セシメ(十六日復歸セシム)十七日熱海ヲ派遣上流警戒隊指揮  
官ノ區處ヲ受ケシメタリ

警備區域内敵國權益ニ對シテハ開戰當日船舶重油槽等ニ對シ  
接收ヲ行ハシメタルガ本月中旬機密支那方面艦隊命令第三號ニ準  
據シ漢口及九江警備隊ヲシテ第三號接收ヲ行ハシメタリ

尚、月十五日ヨリ在漢口海軍兵力縮小セラレタル爲警備地區ノ一部ヲ陸  
軍ニ移管ノ必要ヲ認メ陸軍ト協定同二十五日右地區ノ警備交代ヲ



實施 セシメタリ

(二) 麾下ニ友軍ヲ行動概要

(1) 麾下

上流警戒隊

陸軍第33號作戰ニ協力シタル外哨區ヲ移動警戒シ江岸及水路ヲ確保セリ

伏見及比良ハ七日洞庭湖方面作戰終了後モ尚城陵磯、白螺磯方面ニ在リテ江北、敵第二六師ノ一部カ對岸ニ渡河陸軍守備兵力ヲ薄ナル岳州軍戰鬥司令部ニ對シ襲撃ノ企圖アルヲ察知之ヲ完全ニ制圧セリ

伏見ハ十七日仙峯岩右岸ニ陸戰隊ヲ揚陸掃蕩セル所便衣隊ハ遁走セルヲ以テ其家屋及敵性戎克ヲ燒却セリ

又二十三日纜子灘(九馬嘴前田)及扁山於テ(A型機雷)各一個ヲ處分セリ

堅田八九日〇六〇〇王克勛部下約八〇名竹洲維持會ヲ襲撃セリト報ニ依リ〇セ〇〇陸戰隊ヲ揚陸セルモ遁走後ニテ捕捉シ得ズ

終日漢金關ヨリ下流附近一帯ヲ掃蕩セリ  
尚陸軍部隊ハ同時ニ對岸一帯ヲ掃蕩セルモ共ニ手掛ヲ得ズ

又沙湖(軍司令部)(新灘口西二十五軒)駐屯中ノ定國軍(歸順軍)ハ十一日未新四軍ノ攻撃ヲ受ケ坪坊(新灘口西十二軒)唐家山(通津北西八軒)方面ニ退却スルヲ以テ堅固ハ十二日午後鄧家口(牌洲下流十四哩)ニ於テ唐家山ヲ包圍中ノ新四軍ヲ砲撃シ死傷者百余名ノ損害ヲ與フルト共ニ同日新四軍ノ一部ガ水洪口(牌洲下流六哩左岸)ニ侵入新灘口警備隊襲撃ノ氣配アリシヲ以テ同艦ハ新灘口ニ急航嚴戒セリ然レトモ新四軍ハ沔陽縣内ニ退却セルヲ以テ定國軍ハ十四日早朝大軍山發唐家山鄧家口ヲ經テ沙湖ニ返還セリ

二十五日正午頃新四軍約千名新灘口西方ニ駐屯シ定國軍ヲ再ビ襲撃セルヲ以テ堅固ハ新灘口熱海ハ密灣(牌洲下流一。哩左岸)ニ警言泊嚴重ナル監視ヲナシ  
二十八日比良及熱海ハ密灣(約百名)及水洪口(約三百名)ノ新四軍ニ對シ砲撃(八裡五)スルト共ニ。聯合陸戰隊ヲ密灣下流ニ揚陸陸軍ト協力シテ政撃掃蕩シ曲口(水洪口北々西五軒)及其ノ北方地區ニ遁走セシメタリ

中流警備隊  
哨區ヲ移動警戒シ沿岸及水路ヲ確保セリ

隅田及石灰密陸戰隊聯合陸戰隊三日午後石灰密對岸  
ヲ掃蕩宜撫セリ、隅田八日道士沢下流ニ埋テC型機雷一  
個揚收爆破處分セリ、十日午後道士沢風波港間一帯ヲ掃  
蕩セリ

下流警戒隊

哨區ヲ移動警戒シ、江岸及水路ヲ確保セリ、

安宅ハ十六日太子磯ニ於テC型機雷(シ)六個及浮標一個揚收分  
解處分セリ

二十七日内火艇ヲ以テ東流、娘々廟間戎克四五隻ヲ臨檢セルモ異  
狀ナシ、又同日坊家洲(娘々廟上流ニ料右岸)江岸ヲ機雷觸  
角覆四七個(シ)ヲ拾得セリ

勢多ハ三日敵蠢動ノ徵ヲ認メ、七四五馬當日鐵作業場ニ陸戰  
隊ヲ揚陸所在陸軍ト協力警戒シ、五日、八三〇陸戰隊ヲ收容  
セリ

二見ハ一日綜陽鎮ニ敵未襲ノ報ニ接シ、五〇下綜陽(鐵盤洲  
東北端)ニ陸戰隊ヲ揚陸掃蕩セリ

又十七日新洲(馬當北方)ニ土匪侵入ノ徵アリシヲ以テ陸戰隊ヲ、七  
三〇辨字號ニ、八四五新洲北端ニ夫々揚陸同洲内ヲ東西ヨリ挾撃

掃蕩宣撫セリ

竹生ハ二十四日娘々廟下流(牛磯上流ヒ。米右岸洲上)ニ於テC

型機雷一個ヲ發見處分セリ

安慶陸戰隊第十三號艦水ハ二十日烏石磯(安慶上流于五埋)上流

四料右岸ニ於テ陸軍、發見セル埋設機雷一個ヲ爆破處分セリ

漢口方面警戒隊

哨區ヲ移動警戒シ江岸水路及警備地區ヲ確保セリ

漢口方面特別根據地隊ハ十五日附廢止セラレ漢口警備隊特設

セラレタリ

之ニ伴ヒ漢口海軍警備區域一部(特ニ區中黃波路以南)部分

ヲ二十五日陸軍ニ移管セリ

十九日一〇〇〇左ノ建物茲ニ倉庫ヲ接收セリ

1. 米國青年基督協會 2. 和記洋行 冷凍工場

3. 和利水廠 4. 中國汽車公司

5. 其樂洋行 桐油工場 6. 安利洋行 アパート

7. 諸倉庫(事務室 附屬建物ヲ含ム)

和記洋行、培林洋行、安利洋行、大吉洋行、祥泰洋行

其樂洋行、慎昌洋行、ニキサス石油會社

6

二十六日韓貞育大藥房、瑞祥蛋廠、顧中煙草公司ヲ接收セリ。  
 漢川基地十二號砲艇ハ十九日二三〇新溝上流七哩劉家集ニ於テ  
 陸軍輸送船團ハ中央八路軍及新四軍約六百名ヨリ襲撃  
 受ケタルヲ以テ陸軍部隊ニ協力シテ撃退セリ我々被害輕  
 傷ニ砲艇ハ彈痕二六、機關部損傷四ヶ所ヲ生ジタルモ應急  
 修理ノ上航行使用ニ差支ナキ程度ナリ  
 漢水警備隊ハ二十四日二三五〇漢川上流約七百米ノ江岸ニ敵來  
 襲セルヲ以テ之ヲ攻撃シ二三三〇撃退シ且三十一日蔡甸對岸ヲ掃蕩  
 セリ

ホ九江方面警備隊

哨區ヲ移動警備シ江岸水路及警備地區ヲ確保セリ  
 九江警備隊ハ二月陸戰隊一ヶ小队ヲ以テ洋油棧新港間一帯  
 ヲ掃蕩宣撫シ戎克四六隻ヲ臨檢セリ六月四〇ヨリ九三〇迄  
 鄱陽湖贛江水路ヲ戎克一齊臨檢ノ實施、臨檢數三〇五隻ニ  
 シテ異狀ナレ八月二三〇頃九江市内大仲路陸軍苦力收容所  
 貨物自動車置場陸軍警備地區ニ爆發事件アリ、損害  
 輕微ナルモ犯行経路不明ニシテ警備隊ハ直ニ非常警備ヲ實施ス  
 モ異狀ヲ認メズ

日	場所	種類	数量等
一六	大孤山北西五百米	C型機雷	(コ)一
一八	石鍾山附近	同	(シ)二
同	湖口前面	同	(シ)一 (防雷網ニ拘捉荒ヒ)
一九	大孤山下流一杆	同	(シ)二
二〇	湖口下流三杆	同	(コ)一
二三	大孤山下流一杆	同	(シ)一
二七	同	同	(コ)一

又陸軍大賀部隊市汊街(南昌去流二十里)附近ノ作戦ニ協力、三十日  
 同地附近ニ流掃海ヲ行ヒ敷設機雷十二箇ヲ拘捉爆破處分アリ  
 又艦隊命令ニ基キ十九日利中紡績公司、太古洋行、アシア石油  
 各工場事務所及倉庫ヲ接收セリ  
 文星、官湖港九江間ニテ七日戎克、四隻ヲ十三日九八隻ヲ検問セ  
 ルモ何モ異状ヲ認メズ  
 陸軍第二次長沙作戰協力部隊

(2)

被砲撃、遭難状況

昨年未ニ引續キ城陵磯ヲ基地トシ任務ヲ續行セリ  
 三日。七。〇。城陵磯發面岸ノ敵ヲ制圧シツ、本流ヲ遡江右岸ノ黃  
 公廟三支角ヲ砲銃撃シシ五。〇。城陵磯ニ歸着アリ消耗彈八  
 種、伏見二四、比良十五、保津三、五五耗以下機銃彈多數敵ヲ戦死  
 二三重輕傷三五、重機一破壊敵ハ一時三支角方面ヨリ退却セリ  
 我被害小銃被彈、小广ニ艦水一  
 四五、六日白螺磯周辺及三支角、敵ハ連日反撃ヲシ来ルヲ以テ之ニ  
 對シ嚴戒セリ  
 七日作戦任務ヲ解ケタルヲ以テ上流警戒隊ハ引續キ其ノ任務  
 ヲ繼承警戒ヲ續行其也、隊ヨリノ派遣部隊ハ遂次原隊ニ復  
 飯セリ

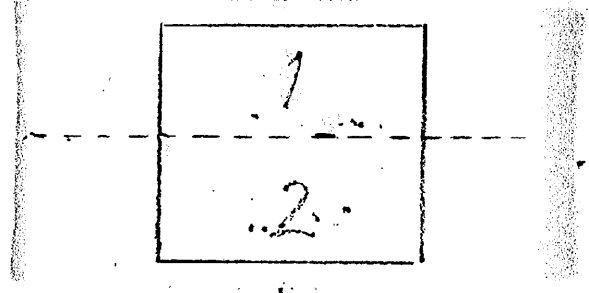
月日	場所	艦(船)名	記
一	螺山沖	測量船 柏丸	一七。〇。檢測、為螺山沖ニ碇泊中、黃衛軍ヨリ 小銃、猛射ヲ浴ビ直ニ應戰シ然レドレハ被害ナレ
九	武穴水道 三尾山附近	海軍徴備船 金剛丸(五二五) 積荷爆彈六〇三	〇八。〇。下流濃霧發生、視界不良、為生洲 三尾山附近東亞海運黃華丸見航一四三〇。 離洲船体異常ナレ

綱雷ナレ

一 九	武穴水道三尾山附近	國際運輸 第八清光丸(六屯)	濃霧、為視界不良トナリ坐洲又東亜海運 黄華丸、手ヨリ一五号離洲ナリ
一 九	武穴民間棧橋	陸軍 第三共榮丸 (三屯)	武穴軍用棧橋ニ横付セントレ、棧橋附近ニ沈船 ニ觸街沈没ス積荷陸揚シ且陸軍消防ボ シゴ一台手押ボシゴ三台ニテ排水ニ努ムルモ効果 ナレナリ三月九日江警備隊四号曳船之ニ協 力莫、排水ボシゴヲ使用排水五時間ニシテ浮 揚セシメタリ
一 三	武穴	陸軍機付渡船 八八五号(三屯)	坐洲四号引却作業ニ從事 一八三の離洲異状ナレ
一 九	新溝流七里 劉家集	漢水警戒隊 十二號砲艇	陸軍輸送船國敵、襲撃ヲ受テ應戰中 十二号砲艇江上警戒中ニシテ遭戰ナシ敵約 五の機銃小銃ヲ有スル有カナル部隊 被害彈痕一六砲艇員二名負傷陸軍側戰 死三重傷三行衛不明一名十二号砲艇修理可 能航行ニ差支ナレ
一 三	土橋 蝦蟆磯	大成丸 釘石ライカー二隻曳船	一五の坐洲十五山田丸、四六砲艇引却作業 ニ從事、二四一七三の離洲セシメタリ人員船体 異状ナレ
一 五	上橋 蝦蟆磯	東亜海運 海軍第五号 (四屯)	一五五坐洲、勢多配屬四六号砲艇協力 六月離洲セシメタリ



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>59 年 10 月 22 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 山岸正雄 (印)</p>	

一月爆擊掃蕩宜撫銃砲擊機雷處分狀況調

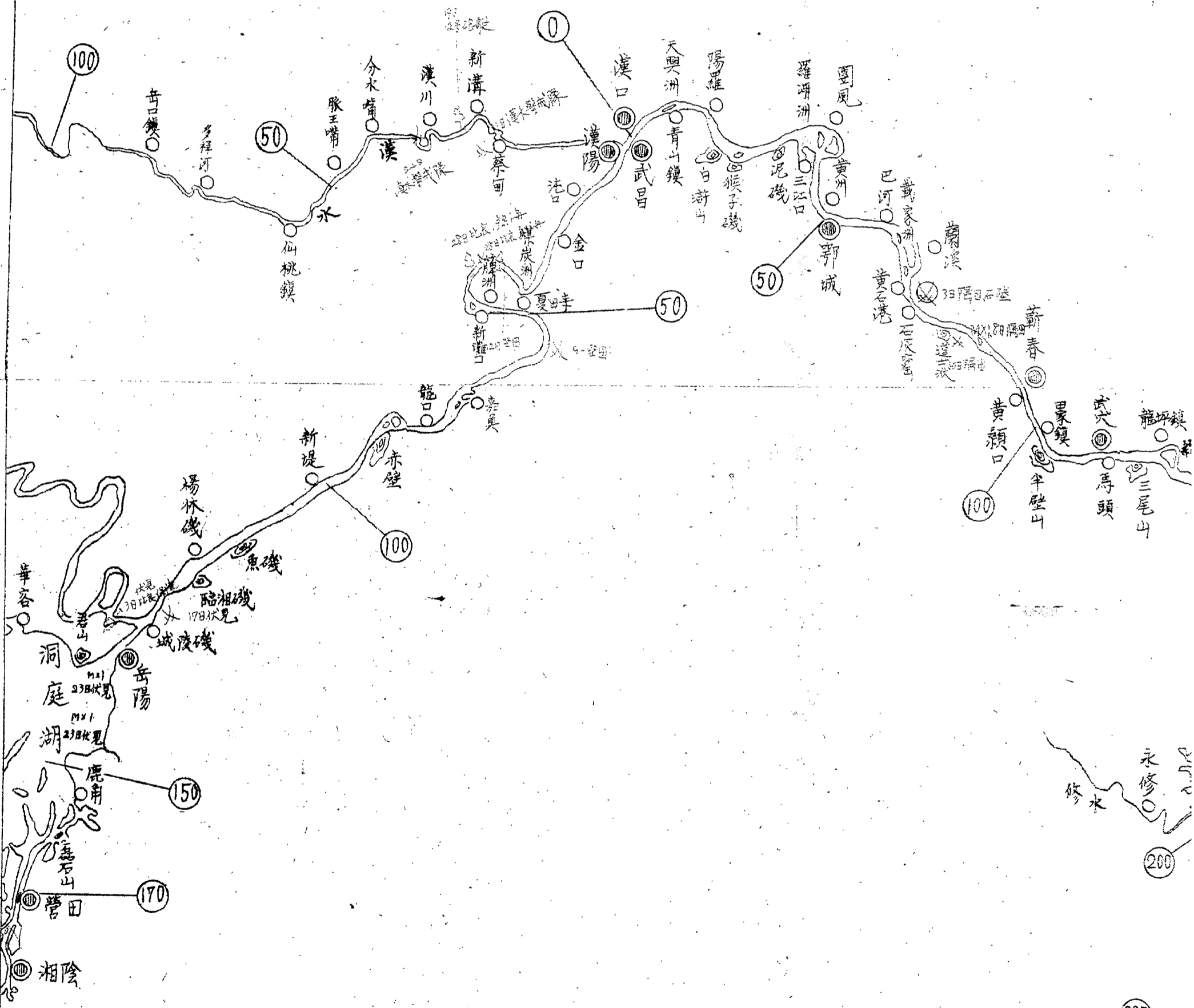
凡例  
 掃蕩宜撫  
 掃蕩宜撫  
 銃砲擊機  
 雷處分

×  
 ○  
 ⊗  
 ⊕  
 MX個數



MX 2  
 310九警  
 0044

空襲回数		0
掃蕩回数		12
機雷処分数	上	2
	中	1
	下	1
	共	4
	警備	21
	其他	21
		322



0045

235

0044

0046

25

第十一軍 前月引續 第二次長沙作戰ノ實施

第三師團ハ一日ハ。頃長沙ニ突入更ニ三日夕刻第三師團ハ長沙東南部 第六師團ハ長沙北部ヲ攻畧シ第四十師團ハ金井ヲ攻畧セリ

軍ハ主カテ以テ長沙市内大部ノ掃蕩ヲ終了シ且南方作戰策應ノ目的ヲ達成セルヲ以テ四日夕刻反轉ヲ開始シ各師團ハ敵ノ頑強ナル抵抗ヲ排除撃破シテ十二日頃相次テ汨水ヲ渡過新墻河及沙港ノ線ニ達シ作戰ヲ終了セリ

而シテ第二次長沙作戰部隊ハ二十日頃迄ニ概テ原駐地ニ復歸シ引續キ管内ノ徹底的肅清ヲ實施セリ  
爾余ノ兵團モ各警備地區ニアリテ各當面敵ヲ撃碎シテ敵ヲ蠢動企圖ヲ挫折セシメタリ中ニモ第三師團ハ下旬孝感黃陂地區ニ侵入セル敵ヲ捕捉殲滅大ナル戰果ヲ擧ゲタリ

又第三十四師團ハ九江警備隊南昌基地隊員協力ノ下ニ市汊街(南昌南方)附近贛江兩岸地區ノ敵ヲ捕捉撃滅セリ  
陸軍航空部隊ハ第二次長沙作戰部隊ニ協力シ特ニ長沙突入竝ニ主力反轉ニ當リテハ適切ニ連絡誘導且徹底的ニ敵陣地ヲ

爆撃ヲ震駭セシメ特ニ八日午後戰場上空ニ於テ出撃シ未レル敵爆撃機九機ト遭遇果敢ナル攻撃ヲ以テ其ノ五機ヲ撃墜又ハ

(三) 敵軍ノ實況

不時着セシメタリ

蔣介石ハ大東亞戰爭勃發ニ際シ米英ニ策應スルタメ十一月三十日  
 全面的反攻ノ命令ヲ發シタルモ將兵ニ戰意ナク且我軍ノ先制攻撃ニ制  
 セラレ各地共微弱ナル現アリタルノミニシテ悉ク破碎覆滅セラレタリ我軍  
 長沙作戰中警備地區内ノ游擊行動ハ概シテ低調ナリシモ末期  
 頃ヨリ各鐵道妨害增加ノ傾向ナリ  
 亦和平救國軍ニ對シ總反攻前ニ予メ策動シ反攻發動後主力ト  
 相呼應シ日本軍ニ對シ攻撃ヲ開始スハ電達セテ形跡アリ  
 第五戰區ハ全面的游擊期間終了後大別山方面ヨリ我警備ノ  
 間隙ヲ潛入シ整伏シアリシモ第三師團ノ討伐ニ潰滅セラレタリ  
 第六戰區ハ突擊ヲ命セラレタルモ見ルハキ行動ナシ長沙作戰中一  
 部兵力ヲ第九戰區ニ抽出セラレタリ  
 第九戰區ノ敵ハ第二次長沙作戰中長沙攻畧迄ハ大シク抵抗ヲ  
 試ミルコトナク退却シ我軍反轉スルト見ルハ稍執拗ニ追躡セルモ我軍ノ  
 猛攻ニ潰滅的打撃ヲ與ヘシレ特ニ第四第六第五軍ハ甚  
 大ナル被害ヲ蒙レリ  
 出撃ノ機ノ規ヒアリシ敵空軍ハ長沙作戰中爆撃機九機ヲ以

テ戰場上空ニ出撃セルモ我戰鬪機ニ其ノ五機ヲ撃墜シ又ハ撃破セ  
 レ他ハ遁走シ更ニ南支陸軍航空部隊ヲ為地上撃破セラレ成都ニ  
 返還セルモ僅カニ機トナリ其ノ後出撃ノ模様ナシ  
 敵佈雷隊ハ中旬我警備ノ間隙ヲ冒シ下流太子磯方面ニ於テ機  
 雷ヲ放流セリ

(四) 作戦ニ影響セル事項

特ニナシ

(五) 戦備ニ影響セル政策事項

特ニナシ

人員現狀

司令部

職員官氏名

職	主務	官	氏名	記
司令長官		海軍中將	侯爵 小松輝久	
參謀長兼		海軍少將	一瀬信一	漢口方面特別根據地隊司令官(月)附參謀長事務トナル
參謀	全般、警備、謀略	海軍大佐	花田卓夫	
同	全般補佐、情報宣傳	海軍少佐	中野忠夫	
同	運輸補給、設管、工作	海軍機務少佐	原田力	
副官兼參謀	諜報、防諜	海軍少佐	井上三郎	一月十五日附免兼漢口方面特別根據地隊副官
機關長		海軍機關大佐	鳥山祐藏	一月十五日附免漢口方面特別根據地隊特關長(海軍)兼警備隊副隊長
軍醫長		海軍軍醫大佐	伊藤實	漢口方面特別根據地隊軍醫長(一月十五日附免)兼職
主計長		海軍主計佐	新井實	漢口方面特別根據地隊主計長(兼漢口方面特別根據地隊主計長)



司令部附	特務	海軍中佐	肥後市次	月十五日着任 兼海軍本部参員
同	同	海軍豫備大尉	増田利章	月十五日附第2遣支艦隊司令部附 同日着任
同	司	海軍主計中尉	羽田恒久	月十五日着任
同		海軍軍医中尉	堤 弘久	兼漢口西特別根據地司令官 承命服勞
同		海軍主計少尉	平國 瑞	
同	掌通信長	海軍兵曹長	藤田勝春	
同	暗號士	海軍兵曹長	永坂秋雄	
同	度務主任	海軍主計番長	生山浅敷	
同	功績主任	海軍主計番長	阿部一男	
CSF司令部附 長官承命服勞		海軍看護番長	上原秀雄	

										船名
8	7	6	5	4	3	2	1			熱海
	石炭窟 三五〇	石炭窟 八五五	漢? 口	口		漢				伏見
城										堅田
神洲 一五〇	老官廟 一四〇	螺山 一五〇	螺山 一五〇	老官廟 一五〇		老官廟 一六一〇	修降洲 一四〇			比良
	老官廟 一五〇	城陵磯 一五〇				城陵磯				田保津
灰	石									安宅
	漢口 一八二〇	城陵磯 一八二〇				磯				安宅
骨牌洲 一〇三〇	香口鎮 一〇三〇	香口鎮 一〇三〇	新洲 一〇三〇	新洲 一〇三〇	安慶 一〇三〇	安慶 一〇三〇	揚第洲 一〇三〇			勢多
安慶 一〇三〇	骨牌洲 一〇三〇	骨牌洲 一〇三〇	彭沃 一〇三〇	彭沃 一〇三〇	安慶 一〇三〇	安慶 一〇三〇	揚第洲 一〇三〇			二見
娘久廟 一八五〇	新開溝 一八五〇	新開溝 一八五〇	梅武 一八五〇	梅武 一八五〇	梅武 一八五〇	梅武 一八五〇	高貴坪 一八五〇			新源興
津源口 一八五〇	薪春 一八五〇	薪春 一八五〇	武六 一八五〇	武六 一八五〇	武六 一八五〇	武六 一八五〇	田家鎮 一八五〇			小鷹
										竹生
										文星
九江 一六三〇	湖口 一六三〇	官湖港 一六三〇	官湖港 一六三〇	九江 一六三〇	九江 一六三〇	九江 一六三〇	安慶 一六三〇			海州

III  
IV  
麻毛下艦船部隊行動  
艦隊行動





